

# The Women's Studies Association of Japan

## 学会ニュース 日本女性学会

第60号 1994年10月

発行 日本女性学会  
事務局 東京都文京区本駒込5-16-9  
学会センターC21  
（旧日本学会事務センター気付）  
TEL 03-5814-5801(K)  
頒 価 一部300円

## 1994年 秋 季 大 会

会場：名古屋市女性会館（手話通訳・保育室あり）

### — プ ロ グ ラ ム —

第1日目：11月19日(土)

13時30分～17時 「女性が問う“家族法”－戸籍・別姓・離婚－」

18時～20時 懇親会（名城会館 — 地下鉄名城公園駅そば）

第2日目：11月20日(日)

10時～12時 個人研究発表（5題）

12時～13時 会員懇談会（会費 弁当実費・大会議室）

13時～15時 ワークショップ（4題 但し、「家族法改正への提言」のみ10時～15時）

15時15分～16時30分 VTR上映「Looking for FUMIKO－女たちの自分探し」

### シンポジウム 「女性が問う“家族法”－戸籍・別姓・離婚－」

#### ●シンポジスト

中田千鶴子

「婚外子相続分差別裁判を聞いて」

善積京子（追手門学院大学、家族社会学）

「非法律婚カップルの選択動機と差別の実態－

『非婚カップルの調査』より－」

大村芳昭（中央学院大学、国際私法）

「夫婦別姓と戸籍制度改革－その方向性－」

館かおる（お茶の水女子大学、女性学）

「婚姻家族と家父長制」

#### ●コーディネーター

戒能民江（東邦学園短期大学、法女性学）

今回の家族法改正で、よりましな案を選んで夫婦別姓選択制を実現させれば、個人の自律を保障して女の男への従属を断ち切る道が開かれるのか。婚外子の相続分差別規定の廃止は、差別の構造を変え、多様な生き方の選択の自由へ向けての第一歩になるのか。「家」の残り滓は、私たちの遅れた意識の問題にすぎないのか。いかにも中立的な装いをこらす家族法の根幹には、排他的・同化強制的国民管理システムである戸籍制度が置かれている。家族法は異性カップルと子からなる「婚姻家族」の

優遇とそれ以外のものの排除・差別の秩序維持装置として働き、個人の自由と平等を阻害する。

シンポジウムはまず、昨年、東京高裁違憲判決を勝ちとった中田千鶴子さんの報告から始めたい。さらに、3人の研究者による、学際的な構造分析と婚姻制度および「家」の解体の方向での問題提起を受けて、個人単位の「家族」法への展望を明らかにしたい。

#### <参考文献>

善積京子『婚外子の社会学』（1993、世界思想社）

“ 編『非婚を生きたい－婚外子の差別を問う－』  
（1992、青木書店）

“ 「非法律婚カップルの現在」  
（『都市問題』Vol.85、No.8、'94. 8.）

大村芳昭「個人の『家』からの解放を」

（『週刊金曜日』39号、1994. 8. 26）

榎原富士子『女性と戸籍－夫婦別姓時代に向けて－』  
（1992、明石書店）

二宮周平「非嫡出子差別はくずれた」

（『法学セミナー』465号、1993. 9）

水野紀子「子どもの平等権－非嫡出子問題を中心に－」

（『家族<社会と法>』10号、1994）

## 個人研究発表要旨

### 第1研究室

#### 「性表現と公共図書館」

越後真知子

コーディネーター 井上照子

70年代から推理小説やSFの出版が急激に増え、名古屋市図書館での購入も同時に増えたが、70年代後半からは性表現があることを宣伝にうたう物が増えた。図書の発売時の宣伝文を収録した図書目録、「BOOK PAGE」を元にこれらの図書の性表現と、名古屋市図書館での購入冊数を調査した。性表現とは言うものの、内容は強姦、強制猥褻、売買春等の性暴力を含むものが大半(67.9%)であった。また、名古屋市図書館の購入冊数の調査では性暴力を含む図書の平均購入冊数が12.2冊であるのに対し、性教育、セクシュアリティ、性犯罪等を扱った対抗言論の平均購入冊数は5.3冊であり、公共図書館の選書の在り方としては問題を感じる。職員の意識調査からは、男性司書よりも女性司書の方が、男性利用者の「意を迎える」形で積極的に購入している事が窺える。これは例えば、障害者を題材にした図書を選択する時の様に、性表現についても人権の観点から検討を加えるという事が確立されていないためであると思われる。

### 第2研究室

#### 「〈不平等なジェンダー〉の社会学をめざして」

名古屋大学大学院 北仲千里

コーディネーター 内藤和美

よく使われる「性別役割分業」という語が果たしてジェンダーのもつ不平等の側面を十分伝えてきたかと言えば、疑問である。

ここでは、①「不平等」「権力」の視点からのジェンダー分析、②ジェンダーの多面性・不整合性を視野に入れた分析、③ジェンダーの変化や再生産(主体と構造の関係)を組み込んだ説明の方法、という三つの問題関心に基づく考察を、『ジェンダーと権力』におけるR.W. CONNELLの議論の検討をつうじて行っていく。

### 第3研究室

#### 新しい視点から経済人類学を読む

田中由布子

コーディネーター 桑原糸子

本報告では、「新しい視点から経済人類学を読む」という作業を進めてみたい。新しい経済学設定の必要は、経済人類学に包摂されたままの女性であることを拒否するためである。そして相対化され、自立した新しい経済

学を設定するためである。

ここで、新しい視点とは、家内奴隷・生産労働者(女子労働者・家族労働者)・性労働者の視点のことである。

経済人類学もまた女性に対する受け皿を欠くことを見出す。マルクス経済学が、その出発の時点で家内奴隷・生産労働者・性労働者に対する受け皿を欠いていたのと同じ意味で、経済人類学もまた、その始源において、女性に対する受け皿を欠く。女性とは、経済人類学の追求する研究目的のなかにおいて、報酬、再配分、市場交換という下位領域や断片に現れる。

### 第4研究室

#### 明治期の尋常小学校修身教科書にみられる女性像

##### —男女共用教科書ならびに

##### 女子用教科書からみる女性像—

名古屋大学大学院 氏原陽子

コーディネーター 亀山美知子

本発表は明治期の小学校教育において、良妻賢母イデオロギーの教え込みがみられたことを確認するため、当時の小学校、そのうち尋常小学校で使用されていた修身教科書を分析した結果を報告するものである。ここでは、数量的な手法と質的な手法とを平行して用いることで、期待される女性像を抽出する。史料は男女共用教科書については講談社の『日本教科書体系』に掲載されているものを、女子用教科書については東書文庫所蔵のものに限定する。この結果、時期を経るにしたがって、女性の役割、特に妻や母親としての役割を価値づけようとする傾向が良妻賢母イデオロギーの確立に向けての流れと重なることが明らかになった。またそれだけでなく、大人の女性と生徒の年齢に近い女子との描かれ方との違いも見いだされた。控えめな妻としての女性に対して、女子の場合、男子と同じように活発に遊んでいる姿がしばしば描かれている。このことは大人と子どもとの境界を女子にはっきり意識させるものであったと考えられよう。

### 小会議室

#### 女性の就労形態、自己評価および心理的問題：第2報

西松能子

コーディネーター 田中かず子

就労形態を選択する女性個人の内的要因について興味を持ち、異なる就労形態—管理職専門職、非管理職専門職、専業主婦—を選択した各群について個人背景の調査、職業モデル、役割モデルおよび心理テスト(顕在性不安尺度、全般性健康質問表およびローゼンベルグ自己評価尺度)を施行した。対象は就労開始後10年から20年の

30歳代から40歳代の専門職管理職の男女、非管理職非専門職の女性、専業主婦の4群であった。

ローゼンバーグ自己評価尺度において非管理職非専門

職の女性が他の3群との比較において1%の危険率で自己評価が低かった。自己評価の加齢にともなう低下は管理職専門職の女性で有意に大きかった。

第2日目 11月20日 13時～15時（但し、「家族法改正への提言」のみ10時～15時）

## ワークショップ

### ●「家族法改正への提言」

館かおる、戒能民江

'94年7月、「婚姻制度等に関する民法改正要綱試案」が発表された。改正案のポイントは、夫婦別姓、破綻主義離婚法の法制化、婚外子相続分差別廃止である。主体的に生きようとする女性たちが家族の意味を変えてしまった今、現行家族法の形式的平等の保障や当事者の協議に任せる「白紙条項」による対応では、「家族生活における個人の尊厳と両性の平等」が実現しないことは明らかである。今回の改正を、差別を撤廃して個人の自己決定を尊重し、子どもの権利を保障する根本的な改革にしていくためには、女性の視点からの改正案の提示とともに、税制・社会保障などの社会制度改革の提言が不可欠である。

このワークショップでは、離婚と戸籍を中心に「要綱試案」への意見書づくりの共同作業を進めていきたい。午前の部では下夷美幸さん（社会保障研究所）、午後の部では北村明美さん（弁護士）に問題提起をしていただく。率直に意見を交換しあいましょう。

### ●女性学教育の現在と未来

— 二つの事例報告から —

コーディネーター 加藤春恵子

愛知淑徳大学で女性学研究所を中心に学生への女性学教育にとりくんでいる国信潤子さんと、横浜女性フォーラムなどでフェミニズム・アートの創造を通じてさまざまな年齢層の女性たちの自己変革の場をつくってきた深沢純子さんの事例報告を中心に、女性学教育の問題点や可能性について話し合います。

### ●地方からの発信 — 「おんなの叛逆」と

「フェミニストジャーナル Fifty: Fifty」

久野綾子・中島美幸＝富士都弥子

かたやりづ草創期に生まれ個人誌として続けられて23年の『おんなの叛逆』、90年に生まれて女性2人の編集になる季刊の『Fifty: Fifty』。外観も誌面構成も対照的な2誌であるが、同時代の女性や心ある男性に向けて熱いメッセージを名古屋から送り続ける志の高さは共通する。当事者3人から、創刊に至るすきさつ、編集の意図や方針、ヒットした特集、読者層と読者とのつながり方、販売方法や財布の具合、地方発信誌ゆえの意義

と苦勞のほど、今後の抱負などを、バックナンバーを見せていただきながら語っていただく。ミニコミ、ミディコミ、マスコミの経験者・関係者、女性とメディアに関心のある方がたの参加を特に期待したい。（漆田）

### ●カイロ発北京へ

人口・環境・リプロ・ヘルス／リプロライツ

— カイロ国際人口・開発会議報告 —

船橋邦子

コーディネーター 渡辺和子

9月5日から13日にかけてエジプトのカイロで開催されたカイロ国際人口・開発会議では人口・環境・開発といった地球規模の問題解決に向けて今後20年間にわたる「行動計画」が採択された。

この「行動計画」には過去の人口会議にはなかった新しい視点が加わった。

(1) 人口・環境問題を解く鍵として女性の基本的人権を保障するリプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）という新しい概念の導入及びジェンダー間の平等、分配の平等、それに対する男性の責任

(2) 新マルサス主義批判。

人口増加に環境破壊の主要原因をみるのではなく、高度工業国の大量生産・大量消費・大量廃棄及び開発のあり方を問い直し、貧困問題の解決をはかる。

(3) NGO活動に対する評価

以上の三点の内容を明らかにし、行動計画作成のプロセス・ロビー活動の方法についても触れ、行動計画の国内における具体化のための討議を含め、人口・環境問題とリプロヘルス・ライツの関係（エコロジカル・フェミニズムの問題提起を考慮しつつ）を分析する手がかりとしたい。

本大会には、学術協力財団の協賛および、名古屋市教育委員会の後援を頂きました。

11月19日(水)は、名古屋市内の宿が大変混んでいます。予約は早いうちにお願致します。(王山会館、ブラ王山・弥生会館・KKR三の丸会館は満室)

**会館** 市外052  
アイリス会館(地方職員共済組合)空室あり  
中区丸ノ内2-5-10 ☎223-3751  
地下鉄「丸ノ内」下車 産業貿易館の近く  
(地下鉄名城線「久屋大通」下車)  
愛知会館(私立学校共済組合)シングル満室、ツイン6室予約

東区葵3-24-11 ☎936-5171  
地下鉄・JR「千種チクサ」下車 すぐ  
愛知県青年会館  
地下鉄「伏見」下車 朝日新聞社の裏  
中区栄1-18-12 ☎221-6001

**会場に近いホテル**

ビジネスホテルキヨシ  
徒歩 会場の向かい  
中区平和1-3-1 ☎322-6769  
ビジネスホテルしなのホテル  
徒歩 会場の向かい  
中区平和1-5-4 ☎321-5043  
ビジネスホテルなかやま  
地下鉄・JR「金山カナヤマ」下車  
中区金山2-2-1 ☎322-3581  
ビジネスホテルアーツホテル  
地下鉄・JR「金山カナヤマ」下車  
中区金山4-5-13 ☎332-1331

ビジネスホテル金山ワシントンホテル  
地下鉄・JR「金山カナヤマ」下車  
中区金山4-6-25 ☎322-1111  
ホテルプラセオ名古屋  
地下鉄「上前津カミマエ」下車  
中区大須4-9-60 ☎269-1800

**その他**

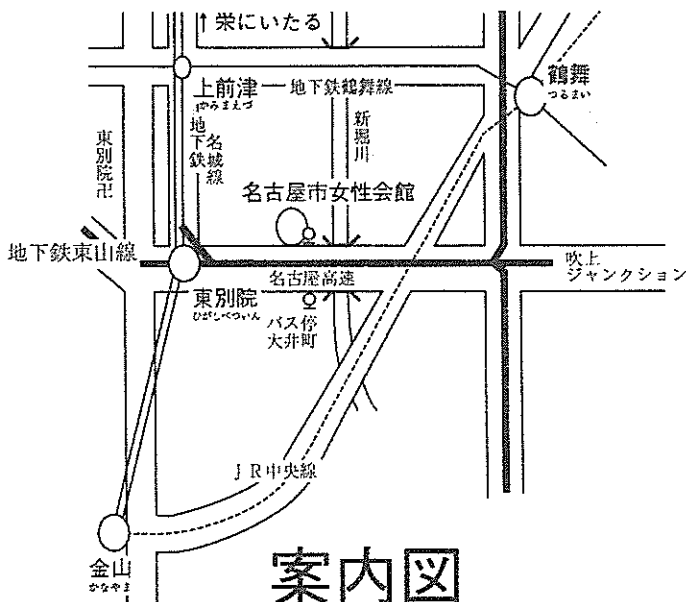
栄サカエ地区・名古屋駅メイエキ地区にはホテル・旅館が多数ありますので、各自で手配して下さい。

**■会員の著作**

**内藤和美**

『女性学をまなぶ』三一新書 '94  
「フェミニズムからみた子どもの性的虐待」  
北山秋雄編『子どもの性的虐待』大修館書店 '94  
鶴殿えりか、藤森かよこ訳 ジュディス・フェットラー  
『抵抗する読者 フェミニストが読むアメリカ文学』  
ユニテ  
秋山洋子訳 エリザベス・ウォーターズ  
『美女/悪女/聖母』群像社  
青木やよひ  
『フェミニズムとエコロジー』(増補新版)新評論

学会の資料(学会ニュースのバックナンバー、寄贈図書等)を閲覧されたい方は、内藤和美氏の自宅(03-3412-2659)に、その旨、御連絡下さい。



**■第8期幹事会役割分担**

代表幹事	井上輝子
常任幹事	加藤春恵子、亀山美知子
庶務	佐々木恵理、加藤春恵子
会計	田中かず子、戒能民江
資料保管	内藤和美
研究会運営	岩本美砂子
学術会議	桑原米子
選挙管理	漆田和代
学会誌担当	桑原米子、佐々木恵理
学会ニュース担当	今井淑子、亀山美知子、細谷実、渡辺和子
大会担当	北沢杏子

※ 紙面の都合で会員の異動事項は次号に掲載します。

今大会の開催に関するお問い合わせは岩本美砂子氏宛(TEL 052(761)2914、FAX 同)に直接お願いします。